

○ 本校の概要

本校は昨年度開校35周年を迎えた。開校時の児童数は定員(120名)ほぼ一杯の119名だった。しかしその後児童数は減り続け、平成22年度以降の当初児童数は30名を下回っている。今年度は9月現在22名の児童が在籍している。本校は病弱の特別支援学校であり、喘息、肥満、虚弱、偏食等の児童が対象である。しかし現在在籍している児童は、それらの理由の他に不登校を経験している児童が半数以上いる。区内では登校できなかった児童も本校に入校した途端、普通に登校でき少数で学習するため休んでいた学習も取り戻すことができる。また栄養管理されている毎日の食事、規則正しい生活、1日90分の運動時間等により、着実に体力が付き健康な体になっていく。特別支援学校としての役割を果たしながら、本校を必要としている多くの児童、保護者のために、校長会、副校長会、PTA会長会、また民生委員、児童委員の方々にも協力を求めていきたい。また今年度はさざなみ学校を館山市民、大田区民に広報するため、様々な機会をとらえて児童の演劇、民舞等の発表をしていきたい。

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
						評価	人数	コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:年度末児童アンケートで「前より勉強がわかるようになった」の項目で肯定的評価が90%以上			A		
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3:年度末児童アンケートで「前より勉強がわかるようになった」の項目で肯定的評価が80%以上					B
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	2:年度末児童アンケートで「前より勉強がわかるようになった」の項目で肯定的評価が70%以上					C
		外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成を図っている。	1:年度末児童アンケートで「前より勉強がわかるようになった」の項目で肯定的評価が70%未満					D
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	東京ベーシックドリルの合格を目指して、基礎基本の学習指導の充実を図る。					
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:年度末児童アンケートの自己肯定感に関する項目で肯定的評価が90%以上			A		
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3:年度末児童アンケートの自己肯定感に関する項目で肯定的評価が80%以上					B
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	2:年度末児童アンケートの自己肯定感に関する項目で肯定的評価が70%以上					C
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	1:年度末児童アンケートの自己肯定感に関する項目で肯定的評価が70%未満					D
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。						
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:年度末児童アンケートの体力向上に関する項目で肯定的評価が95%以上			A		
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	3:年度末児童アンケートの体力向上に関する項目で肯定的評価が90%以上					B
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	2:年度末児童アンケートの体力向上に関する項目で肯定的評価が80%以上					C
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	1:年度末児童アンケートの体力向上に関する項目で肯定的評価が80%未満					D
		年間を通して持久走に取り組み体力の向上を図る。						
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:年度末保護者アンケート「学校は、子どもたち一人一人のよさを認め、伸ばす指導をしているか」の肯定的評価が95%以上。			A		
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	3:年度末保護者アンケート「学校は、子どもたち一人一人のよさを認め、伸ばす指導をしているか」の肯定的評価が90%以上					B
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	2:年度末保護者アンケート「学校は、子どもたち一人一人のよさを認め、伸ばす指導をしているか」の肯定的評価が80%以上					C
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	1:年度末保護者アンケート「学校は、子どもたち一人一人のよさを認め、伸ばす指導をしているか」の肯定的評価が80%未満					D
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。						
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくり出します。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	年度末保護者アンケート「学校は教育活動を広報するために積極的に活動しているか」の肯定的評価が80%以上			A		
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	年度末保護者アンケート「学校は教育活動を広報するために積極的に活動しているか」の肯定的評価が70%以上					B
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	年度末保護者アンケート「学校は教育活動を広報するために積極的に活動しているか」の肯定的評価が60%以上					C
		本校の教育活動を館山市民や大田区民に理解してもらうために、全教職員が広報活動に取り組む。	年度末保護者アンケート「学校は教育活動を広報するために積極的に活動しているか」の肯定的評価が60%未満					D

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。  
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。  
 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切では